

# 非ウォーターフォール型開発手法の普及に向けて

SEC エンタプライズ系プロジェクト リーダー  
山下 博之

SEC エンタプライズ系プロジェクト 研究員  
柏木 雅之

最近、ますます注目度が増している非ウォーターフォール型、特にアジャイル型開発手法について、前年度に実施した普及要因と適用領域の拡大に関する調査の結果を受け、アジャイル型開発プラクティス・リファレンスガイドの発行と共に、同手法の普及促進を行った。

## 1 アジャイル型開発プラクティス・リファレンスガイド

非ウォーターフォール型、特にアジャイル型開発手法は、ビジネス環境の変化がそのスピード及び質の面で拡大する中で、変化への俊敏な対応が可能なソフトウェア開発手法として一層注目度が高まってきている。

2012年6月に公開した、「非ウォーターフォール型開発の普及要因と適用領域の拡大に関する調査報告書」<sup>※1</sup>において「現場導入のナレッジ収集と活用するためのTips集づくり」の提言を受け、「アジャイル型開発におけるプラクティス活用事例調査」を実施し、国内でアジャイル型開発の活用が進む先駆的企業（26プロジェクト）の延べ59件のプラクティスの利用状況（図1）を調査・分類した。その結果をもとに、プロジェクト規模やアジャイル型開発の種類などのプロジェクト特性（表1）によるプラクティス適用状況の違い、適用する場合の工夫や留意点などを取りまとめ、調査報告書と共に、「アジャイル型開発におけるプラクティス活用リファレンスガイド」<sup>※2</sup>（図2に説明例を示す）を公開した。

## 2 普及促進活動

アジャイル型開発手法に関する過去4年間のIPA/SECの取組み内容を整理した記事を掲載する [SEC journal 31] と共に、同手法の導入事例や人材育成を取り上げたセミナーを多数開催し、普及促進に努めた。

### プラクティスの実態－『ふりかえり』

<p><b>状況</b></p> <p>イテレーション毎に、チームは動くソフトウェアとして成果を出そうとしている。イテレーションを繰り返して、チームはソフトウェアを開発していく。</p> <p><b>問題</b></p> <p>開発チームは、そこに集まったメンバーにとって最適な開発プロセスを、最初から実践することはできない。</p> <p><b>フォース</b></p> <p>イテレーションでの開発はうまくいくこともあるが、うまくいかないこともある。</p> <p><b>解決策</b></p> <p>反復内で実施したことを、反復の最後にチームでふりかえり、開発プロセス、コミュニケーション、その他様々な活動をよりよくする改善案をチームで考え実施する機会を設ける。</p>	<p><b>利用例</b></p> <p>●事例(25):当初はKPT<sup>®</sup>を用いてふりかえりを行っていたが、ファシリテータの技量にふりかえりの質が依存してしまう、声の大きいメンバーに影響を受けてしまうことに気づいた。そのため、意見を集めるやり方として、555(Triple Nickels)<sup>※2</sup>を用いることにした。</p> <p><b>留意点</b></p> <p>●ふりかえりにチームが慣れていない場合は進行で各人の意見をうまく引出すようにしないとうまくいかない。</p> <p>●問題点を糾弾する場にしてしまうと、改善すべき点を積極的に話し合えない場になってしまう。</p> <p>●改善案を出しても、実際に実行可能なレベルの具体的なアクションになっていないと実施されない。</p>
--	--

※1 メンバー全員で、Kepp(よかったこと・続けたいこと)、Problem(問題・困っていること)、Try(改善したいこと・チャレンジしたいこと)を出し合い、チームの改善を促す手法。

※2 アクションや提案に対するアイデアを出すための手法。5人程度のグループで、各人が5分間ブレインストーミングをしてアイデアを書き出す。5分経過後は紙を隣の人にもわし、新しいアイデアを書き加える。

図2 ガイドにおけるプラクティスの説明例

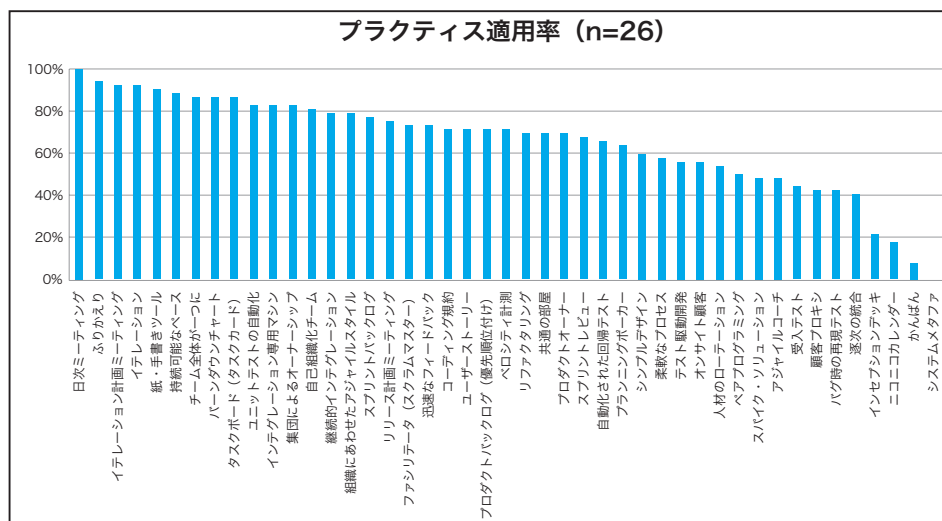


図1 アジャイル型開発プラクティスの利用状況

表1 プロジェクト特性

a)	開発期間が短い
b)	成果物の対象範囲の変動が激しい
c)	求められる品質が高い
d)	コストの制約が厳しい
e)	開発者のスキルが未成熟
f)	初めての技術・業務領域を扱う
g)	新しいチームで開発する
h)	分散開発をする
i)	初めてアジャイル型開発をする

**【脚注】**

- ※1 <http://sec.ipa.go.jp/reports/20120611.html>
- ※2 <http://sec.ipa.go.jp/reports/20130319.html>

**【参考文献】**

[SEC journal 31] 山下、柏木：非ウォーターフォール型（アジャイル）開発の動向と課題，SEC journal No.31 Vol.8 No.4 pp.164-172, 2012